

令和6年度

第5回沖縄県中学校英語教育研究大会



会場:北中城村立北中城中学校  
令和 6年 11月 29日 (金)

## 資料

- 1 アンケートフォーム・・・・・・・・・・・・・・・・・・(p. 1)
- 2 実施要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・(p. 2)
- 3 公開授業指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・(p. 3)
- 4 第72回九州地区英語教育研究大会(大分大会)分科会発表要旨・・・・・・・・(p. 7)
- 5 沖縄県中学校英語教育研究会事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・(p. 13)

令和6年度第5回沖縄県中学校英語教育研究大会に関するアンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

- 1 公開授業に関するご質問・ご感想をご記入下さい。

ご質問への回答は、授業研究会の中で取り上げさせていただきます。



- 2 全体会【講演会】についてご感想をご記入下さい。



ご協力ありがとうございました。来年度は、島尻地区開催となります。

# 令和6年度 沖縄県中学校英語教育研究大会実施要項

## 1 目的

- (1) 本県英語教育の発展を目指した情報交換の場とする。
- (2) 英語教員の資質向上に資する研修の場とする。

## 2 授業研究会の内容

- (1) 名 称：令和6年度 第5回沖縄県中学校英語教育研究大会
- (2) 主 催：沖縄県中学校学校英語教育研究会
- (3) 日 時：令和6年11月29日（金） 13:45 ~ 16:45
- (4) 場 所：北中城村市北中城中学校  
(〒901-2311 沖縄県中頭郡北中城村喜舎場306)
- (5) 内 容：Ⅰ公開研究：川田 奈々 教諭（北中城中学校）  
Ⅱ研究発表：前田 安子 教諭（名護市立屋部中学校教諭）  
（オンデマンド）  
Ⅲ講 話：山田 誠志 教授（至学館大学 こども健康・教育学科）
- (6) 日 程 13:15 ~ 13:45 （30分）受付・資料配布  
13:45 ~ 14:35 （50分）公開授業  
14:35 ~ 14:50 （15分）休 憩  
14:50 ~ 16:30 （100分）指導助言及び講話  
16:35 ~ 16:40 （ 5分）アンケート回答  
16:40 ~ 16:45 （ 5分）閉 会

## 3 参加申し込み方法

別添の参加申し込み用紙にて FAX、メール、又は QR コードより forms にて申し込みをお願いします。

※ 会場には十分な駐車スペースがございません。ご来校の際は、できる限り乗り合わせの上、お越しいただきますようお願い致します。

# 第3学年 外国語活動 / 外国語科学習指導案

令和6年11月29日 5校時  
 北中城村立北中城中学校 3年4組 33名  
 授業者 川田 奈々  
 T2 マーカス フルモト

## 1 単元名

年間指導計画 p 20 (11-12月) 指導内容

教材名：Unit6 「The Chorus Contest」(光村図書 Here We Go! 3年)

CAN-DO リスト：[SP-2] ストーリーや日常的な話題について、事実や気持ちを整理して、簡単な文やつなぎ言葉を使って、まとまりのある内容を話すことができる。

## 2 単元の目標

- (1) 現在分詞・過去分詞による後置修飾や間接疑問文の基本的な用法を理解することができる。  
(知識及び技能)
- (2) 自分の学校生活について、写真にぴったりの説明やせりふを考えて、伝えることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 自分の学校生活の説明や紹介を、相手を意識して伝えようと工夫している。  
(学びに向かう力、人間性等)

## 3 単元について

### (1) 教材観

本単元では、中学校学習指導要領の「聞くこと」と「話すこと [発表]」に関連する内容を取り扱い、最終的には「話すこと [発表]」の「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」ことを目標とする。

言語材料は、現在分詞・過去分詞による後置修飾と間接疑問文を取り扱っている。題材は「合唱コンクール」で、学校行事や日常の出来事という生徒の共通の話題になっている事柄である。単元を通して、自分の説明したいことが話せるような授業を展開し、北中城中学校の学校生活について伝えられるような能力を身につけさせたい。

### (2) 児童(生徒)観

昨年度末の沖縄県学力到達度調査の結果では、英語の平均正答率は46%と、県の平均49%と3%の差があることがわかった。また、2学期初めに行ったアンケート調査では、「英語が苦手である」と答えた生徒は6割であった。しかし、「英語は将来役に立つ」と回答した生徒は9割おり、「聞くこと」に次いで「話すこと」が好きであるという結果が出た。

本学級には、アメリジアンスクールに通っている生徒が在籍しており、1学期に本校にて交流会を行った。その際、生徒同士が英語でコミュニケーションを取る様子が見られ、やり取りの中で、次回はアメリジアンスクールの学校行事にも参加してほしい、という提案があった。そこで、次回交流会があった時に(場面)、アメリジアンスクールの同世代の生徒に、北中城中学校の学校生活について知ってもらうために、(目的)、写真を用いて説明する(状況)という目標を設定した。「話すこと」は好きなので、この「伝えたい」をきっかけに、英語の苦手意識を軽くするようにする。

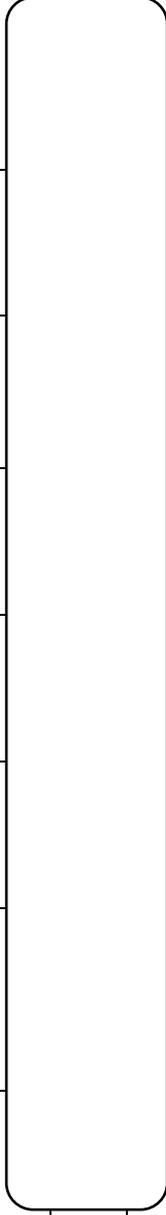
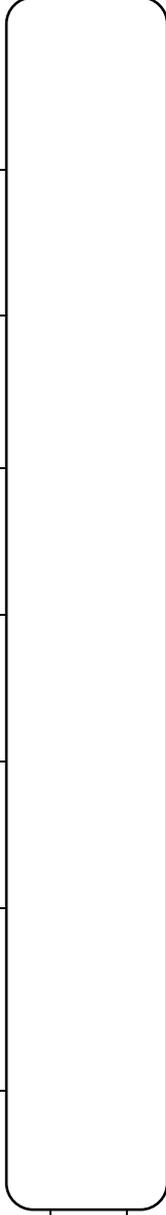
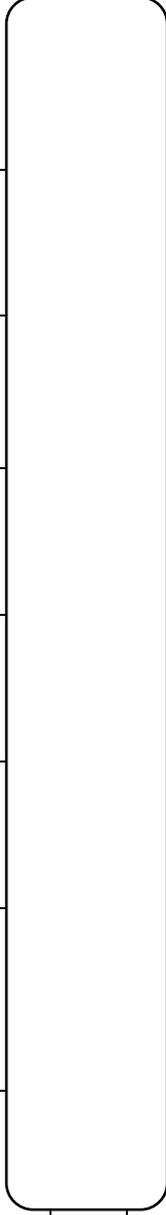
### (3) 指導観

新文法は、実際に活用することで、コミュニケーションに活かすことができるようになるため、ペアでどんどん活動させ、即興で伝えられるようなスモールステップを積んでいく。具体的には、教科書の挿絵や、合唱コンクール時の実際の写真などを picture description で使用し、何かを描写・説明するとき、後置修飾が便利だということに気づかせ、活用させる。また、ペア活動後にネイティブ・スピーカーのモデル文を聞いたり、よりよい表現方法を全体で共有したり、タブレット端末で写真を見せながら発表したりするなど、生徒がスモールステップで単元の目標に近づくような工夫をする。その際、初めから正確さを求めず、伝える内容を重視しながら(accuracy < fluency)、生徒の実態に合わせてフィードバックするよう留意する。本校英語科で共通実践している5Keys(Smile, Clear Voice, Gesture, Reaction, Eye Contact)も継続的に活用を促し、相手意識を持ち発表する態度も育んでいく。

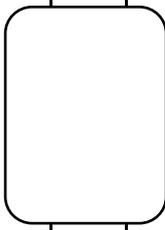
4 単元の評価規準

領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (発表)	<p>〈知識〉 現在分詞・過去分詞による後置修飾や間接疑問文の構造を理解している。</p> <p>〈技能〉 学校生活について、写真にふさわしい描写やせりふなどを整理し、後置修飾などの簡単な語句や文を用いて相手に伝える技能を身につけている。</p>	<p>アメリカンスクールの生徒たちに、北中城中学校を紹介するために、学校生活について、写真にふさわしい描写やせりふなどを整理し、簡単な語句や文を用いて相手に伝えている。</p>	<p>アメリカンスクールの生徒たちに、北中城中学校を紹介するために、学校生活について、写真にふさわしい描写やせりふなどを整理し、簡単な語句や文を用いて相手に伝えようとしている。</p>

5 単元の指導計画と評価計画 (全 10 時間) \*○記録に残す評価

時	ねらい・学習活動 目標 (■)・主な言語活動等 (丸数字)	評価規準			評価方法及び 支援が必要な児童生徒への手立て
		知技	思考表	態度	
1	扉：単元の導入 ■単元の大まかな流れを確認し、MY GOAL をたてよう。 紹介する写真のイメージ図を描く。 My Goal をたてる Performance 課題・ループリックの確認				<p>・毎時間の帯活動で picture description 「話すこと (発表)」の言語活動 (Small Talk) を行う。中間指導を行い、毎時間ステップアップできるようにする。</p> <p>・単元末に行うパフォーマンステストに向け、自分の説明したいことが話せるよう毎時間 small talk に取り組ませる。</p> <p>・毎時間の学習の振り返りは Project Journal に記入させる。</p>
2	Part1 本文 ■Part1 本文の内容を理解し概要を捉える。 ①Picture Description (帯) ②Part1 教科書本文理解				
3	Part1 言語活動 (現在分詞の後置修飾) ■誰かについて詳しく説明しよう。 ①Small-Talk (帯) ②後置修飾でインフォメーションギャップ				
4	Part2 本文 ■Part2 本文の内容を理解し概要を捉える。 ①Picture Description (帯) ②Part2 教科書本文理解				
5	Part2 言語活動 (過去分詞の後置修飾) ■おススメの物を詳しく説明しよう。 ①Small-Talk (帯) ②後置修飾で身近なものを紹介				
6	Part3 本文 ■Part3 本文の内容を理解し概要を捉える。 ①Picture Description (帯) ②Part3 教科書本文理解				
7	Part3 言語活動 (間接疑問文) ■誰かについて知っている情報をたずね合おう。 ①Small-Talk (帯) ②間接疑問文でインタビュー ③ゲットした情報を書く				
8	Goal ■「北中城の魅力」を自分の言葉で伝えよう。 ①Picture Description (帯) ②自分で作成した画像を説明する。				

記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に活かすことは毎時間行う。活動させているだけにならないよう留意する。

9	パフォーマンステストの質の向上 ■相手を意識して、「北中城の魅力」について、自分の気持ちを加えて伝えよう。 ①ループリックの確認 ②Small-Talk (帯) ③選んだ写真をペアに説明する。 ④マーカス先生に説明する。			
10	パフォーマンステスト 単元のまとめ	○	○	○
後日	ペーパーテスト	○	○	○

6 単元末または学期末におけるパフォーマンステストとループリック

(1) パフォーマンステスト

「アメラジアンスクールの生徒たちに、北中城中の魅力を、写真を通して紹介しよう。」

発表例)

- ① In Kitanakagusuku J.H.S, we have Friendship Festival.
- ② We play sports together, and welcome 1<sup>st</sup> graders.
- ③ Look at the boys.
- ④ The boy playing tug of war is Ken. The boy standing next to him is Makoto.
- ⑤ I like the festival because I can make new friends.
- ⑥ ( What kind of sports event do you have?)

(2) ループリック

	「英語の」知識・技能	「内容の」思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	北中城中の魅力について、誤りのない正しい英文で話すことができた。	北中城中の魅力について、写真を示しながら自分の気持ちを添えて英語で紹介している。	北中城中の魅力について、写真を示しながら自分の気持ちを添えて英語で紹介しようとしている。
B	北中城中の魅力について、文法や発音等に多少の誤りはあるが、コミュニケーションに支障のない程度の英語で話すことができる。	北中城中の魅力について、写真を示しながら英語で紹介している。	北中城中の魅力について、写真を示しながら英語で紹介しようとしている。
C	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。	Bを満たしていない。
*5Keys(Smile, Clear Voice, Gesture, Reaction, Eye Contact)			

7 本時の学習【9/10時間】

(1) ねらい

相手を意識して、「北中城中の魅力」について、自分の気持ちを加えて伝えよう。

(2) 本時の評価規準

評価の観点	思考・判断・表現
評価規準	アメラジアンスクールの生徒たちに、北中城中の魅力を紹介するために、写真を用いて話している。
評価方法	授業内：観察 授業後：Project Journal

(3) 「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善（発問など授業の工夫）

場面	工夫点	めざす子どもの姿
4. 選んだ写真をペアに説明する	活動後に中間指導を入れ、新しいペアに話す時に少しずつクオリティを上げられるようアイデアを共有する。	より伝わる工夫を試し、ブラッシュアップする。

(4) 展開 (第9時)

過程	学習活動・内容・発問等	予想される子どもの反応	指導上の留意点、評価等
導入 10分	Greetings 1. Warm-Up  2. Small-Talk  3. 動画の視聴(10秒) (アメリカンスクールの生徒1人が質問している動画)	Good afternoon. 学んだ表現を思い出しながら話す。  自分の考えを伝え合う。  動画を視聴する。(単元始めの授業で見ているので2回目の視聴。)	・英語を話しやすい雰囲気を作る。  ・自分の気持ちを伝えるために必要な表現(I think, I like)などを意識させる。  ・BIG GOAL を再度確認し、目的・場面・状況を意識させる。 ・動機付けのために動画を使用し、発表を聞いた相手がどんな反応をするか想像させる。
展開 25分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>Today's Goal</b> 相手を意識して、「北中の魅力」について、自分の気持ちを加えて伝えよう。</p> </div> <p>4. 選んだ写真をペアに説明する ①ペア活動⇒中間指導 ②新ペア活動⇒中間指導 ③新ペア活動</p> <p>〈中間指導で予想される例〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>In Kitanakagusuku J.H.S, we have an event called Sports Festival. Look at the boys. The boy passing a baton is Ken. The boy receiving it is Dai. I think this event is amazing because we can play sports together. What kind of sports event do you have?</p> </div>	ペアでやり取りする中で、新しい表現を取り入れ、自分の発表をブラッシュアップさせる。	・質を上げる時間にするを共通確認する。  ・中間指導を入れ、「どんなことが言いたかったか」確認し、表現の幅を広げる。 ・言語面と内容面の両方において中間指導を行う。 ・良い例や疑問点を全体で共有し、表現方法を見つけさせる。
終末 15分	5. 代表数名がマークス先生に北中の魅力を伝える。  6. Project Journal	ペアでのやり取りを再現し発表する。その他の生徒は発表を聞く。  今日の授業での新たな気づきや発見を記入する。	・振り返り記入時に参考にできるよう、黒板には生徒から出てきた表現を残しておく。

(5) 板書計画 (予定)

Day

Friday

Date

November 29th

weather

sunny

BIG GOAL

アメリカンスクールの生徒たちに、北中城中の魅力を、写真を通して紹介しよう。

Today's GOAL

相手を意識して、「北中の魅力」について自分の気持ちを加えて伝えよう。

(生徒から出てきた表現を記入する)

Eye contact

Smile

gesture

reaction

clear voice

# 第72回 九州地区英語教育研究大会 鹿児島大会



## 日 時

### ■ 1日目：全体会

【小・中学校の部】 令和6年10月18日（金）10時00分～16時40分

【高等学校の部】 令和6年10月18日（金）10時00分～15時55分

### ■ 2日目：分科会

【小・中学校の部】 令和6年10月19日（土）9時20分～12時00分

【高等学校の部】 令和6年10月19日（土）9時20分～12時00分

## 会 場

### ■ 1日目：令和6年（2024年）10月18日（金）開会行事／公開授業／講演

【小・中学校の部】 リナシティかのや（鹿児島県鹿屋市大手町1-1）

【高等学校の部】 カクイックス交流センター 大ホール（かごしま県民交流センター 大ホール）  
（鹿児島県鹿児島市山下町14-50）

### ■ 2日目：令和6年（2024年）10月19日（土）分科会

【小・中学校の部】 鹿屋市立鹿屋女子高等学校（鹿児島県鹿屋市西原1-24-35）

【高等学校の部】 鹿児島県立鹿児島中央高等学校（鹿児島県鹿児島市加治屋町10-1）

※ 本大会は、【小・中学校の部】は鹿屋市、【高等学校の部】は鹿児島市と分散開催で実施します。

## 大会テーマ

### 「新時代の日本人 ～コミュニケーションでつながる英語教育～」

（テーマ設定理由）

グローバル社会、情報社会、ポストコロナ時代を迎えた今、英語教育においても、日本人として「英語を使って何ができるようになるか」という原点に基づいた学びが求められています。現在、私たちは小学校・中学校・高等学校で、ICT機器の活用や、協働的な体験活動、多様な他者とのコミュニケーション等を意識したさまざまな授業実践に努めています。新たな時代をよりよく生きることができると期待される児童・生徒の育成を目指し、このテーマを設定しました。

# 大会日程

## 【小・中学校の部】

第1日：10月18日(金)	時 間	第2日：10月19日(土)	時 間
受付	9：15～10：00 (45)	分科会A	9：20～10：30 (70)
開会行事	10：00～10：20 (20)	分科会B	10：50～12：00 (70)
基調講演	10：30～11：50 (80)		
昼食・協賛展示	12：00～13：20 (80)		
公開授業（小学校）	13：20～14：05 (45)		
公開授業（中学校）	14：20～15：10 (50)		
授業研究（小・中学校）	15：25～16：15 (50)		
閉会行事（諸連絡）	16：25～16：40 (15)		

## 【高等学校の部】

第1日：10月18日(金)	時 間	第2日：10月19日(土)	時 間
受付	9：30～10：00 (30)	分科会A	9：20～10：30 (70)
開会行事	10：00～10：15 (15)	分科会B	10：50～12：00 (70)
基調講演	10：30～12：00 (90)		
昼食・協賛展示	12：00～13：20 (80)		
公開授業（高等学校）	13：30～14：20 (50)		
授業研究（高等学校）	15：00～15：40 (40)		
閉会行事（諸連絡）	15：45～15：55 (10)		

※ 公開授業（高等学校）は、ステージ上では行いません。そのため、参加者が授業を受ける生徒の様子を間近で参観することができます。

## 公開授業者・司会者・指導助言者

小学校の部	授業者	東 美 里	(鹿屋市立鹿屋小学校教諭)
		坪 山 麻衣子	(鹿屋市立鹿屋小学校日本人英語指導講師 J T E)
	司会者	森 重 輝	(鹿屋市立吾平小学校教諭)
	指導助言者	川 上 典 子	(鹿児島純心大学人間教育学部教授)
中学校の部	授業者	池 田 大 恭	(鹿屋市立鹿屋中学校教諭)
	司会者	亀之園 ち え	(鹿屋市立田崎中学校教諭)
	指導助言者	石 原 知 英	(鹿児島大学教育学部准教授)
高等学校の部	授業者	脇 久美子	(鹿児島県立甲南高等学校教諭)
	司会者	池 夙 弥 生	(鹿児島県立甲南高等学校教諭)
	指導助言者	国 重 徹	(鹿屋体育大学スポーツ人文・応用社会科学系教授)

## 分科会発表者一覧

### 【小・中学校の部】

分科会A（2日目 9：20～10：30）

番号	発表タイトル	校種	担当県	発表者	発表概要
2 A	自律的に資質・能力を身に付けようとする生徒の育成	中	鹿児島	石塚直貴 鹿児島市立伊敷中学校 教諭	単元を貫く到達目標 (Large Task) を設定し、それを達成するまでの学習過程に自由進度学習を意識した時間を設定することについて、県内の複数校で先進的に2年間実践・研究したことをまとめ、発表する。
4 A	主体的に学びに向かい英語で発信しようとする児童生徒の育成～小中連携を基盤とした英語教育をとおして～	中	熊本	佐藤展幸 高森東学園義務教育学校 教諭	令和2年度から阿蘇管内の小中連携の取組を進めてきた。今回は、これまで研究してきた取組や昨年度行われた県大会での授業等について発表する。
6 A	主体的に英語学習に取り組む生徒の育成～パフォーマンス課題を活用したパフォーマンステストの実践を通して～	中	佐賀	岩元正悟 佐賀市立思齊中学校 教諭	各学校でパフォーマンステストを毎学期に実施したり、本市内教師で作成したハンドブックを活用したりしている。さらに、パフォーマンステストで明らかとなった成果と課題について、意見を交換し、授業実践の改善を目指している。
8 A	即興性のある英語力を育成する指導法とその効果	中	宮崎	押領司健史郎 都城市立妻ヶ丘中学校 教諭	即興で自分の考えや気持ちを伝え合う英語力を伸ばすために、4技能をバランスよく指導することで、生徒にどのような変容が見られたか。
9 A	児童が主体的に学び合うことのできる外国語活動・外国語科の授業づくり	小	鹿児島	田尾久美子 薩摩川内市立平佐西小学校 教諭	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、「児童が主体的に学び合うことのできる授業づくり」を目指し、研究・実践を重ねてきた。複式学級を有する小規模校や大規模校での実践例を紹介する。

番号	発表タイトル	校種	担当県	発表者	発表概要
1 B	表現力の向上を目指して～日常的な表現活動の取組～	中	長崎	永野 恭子 時津町立鳴北中学校 教諭	表現力向上のための「話すこと」におけるペア活動やリアクション練習、「書くこと」におけるまとまりのある文章を書くための手立てについて、町内における日常の取組と外国語大学との交流について紹介する。
3 B	主体的に学び、未来を創造する生徒の育成～効果的な言語活動を取り入れた授業改善の工夫～	中	大分	大塚 慶一郎 竹田市立竹田中学校 教諭	生徒がコミュニケーションの中で英語を使う楽しさを知り、一人ひとりが「わかる・できる・楽しい」授業をめざした。そのために必要な授業における効果的な言語活動の工夫・あり方について、研究に取り組んだ内容を発表する。
5 B	伝え合うことに喜びを感じる子どもを育てる英語科学習指導法	中	福岡	井上 美咲 朝倉市立甘木中学校 教諭	コミュニケーションの場において、キーワードを使って伝えたい内容を構成し、相手と質問したり答えたりしながら目的や場面、状況に応じたやり取りを行い、相手に配慮しながら、互いの情報や考えを伝え合う学習過程についての実践。
7 B	思考力や表現力を育む学習過程の工夫	中	沖縄	前田 安子 名護市立屋部中学校 教諭	自己の課題を考え、広げ、深めるという視点から、生徒同士の相互評価や振り返る学習活動を常活動で取り入れ、主体的に話す、書くことのできる生徒を目指した実践を紹介する。
9 B	小中一貫で取り組むGLOBAL (Think Globally, Act Locally) 人材の育成～「主体的に学習に取り組む態度」の指導改善を通して～	小	鹿児島	牧 久美子 鹿屋市立東原小学校 教諭  前原 千代美 鹿屋市立鹿屋東中学校 教諭	学校・保護者・地域が一体となって、英語を活用しながら、「郷土理解」と「他者貢献」による幸福感を得られるために、「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価の一体化を目指した鹿屋市英語教育圏推進会議の組織的な実践研究の成果と課題をまとめる。

## 思考力や表現力を育む学習過程の工夫

発表者 前田 安子 (沖縄県名護市立屋部中学校)  
指導助言者 宮之脇 圭 (鹿児島県教育庁義務教育課指導主事)  
司会者 城間 元喜 (沖縄県名護市立久辺中学校)

### 1 はじめに

令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果を受け、特に課題の見られた「書くこと」について普段の授業を振り返り、学習過程を見直すこととした。学習過程の中で、「書くこと」につなげる「話すこと」の言語活動の工夫や、自己の課題を考え、広げ、深めるという視点から、生徒同士の相互評価や学びを振り返る学習活動に重点を置き、単元づくりを行っている。それらを通して、本校英語科が立てた3年後の姿「自分の興味・関心のあることについて考えたことや感じたことを、理由を加えて説明することができる」生徒の育成を目指し、授業実践に取り組んでいる。

### 2 本校の現状と課題

本校は沖縄県北部に位置する名護市にあり、教育目標「不撓不屈」を掲げ文武共に実績を残し、校風は後輩たちへと受け継がれている。3年生になると進学コースのある高等学校や県外への受験も視野に入れ、意欲的に学び始めるなどの大きな成長が見られる。

課題は前述したように、全国学力・学習状況調査 大問10「書くこと」では、無解答率は全国よりも低い割合であったものの、正答率は著しく低い結果であった。さらに、昨年度2月実施の沖縄県到達度調査においても、「書くこと」では同様の結果であった。英語学習に対して苦手意識はないものの、「書くこと」に関しては不慣れさが見て取れるため、改めて基礎的基本的な「書くこと」(1年生・2年生前期)からまとまりのある文章を「書くこと」(2年生後期・3年生)のできる生徒の育成を目指し、授業改善に取り組んでいる。

### 3 指導の実際

#### (1) 研究対象

本研究は、本校2学年4クラス140名(1クラス35名)を対象に行っている。生徒の実態としては、英語学習は積み重ねのため、学習力の差が出つつある。しかし、「英語を使ってALTとやり取りをするのが大好き」と答える生徒がほとんどの割合を占めており、授業以外でも簡単な英語を使って受け答えをするなどの積極的な姿勢が見られる。

## (2) 方法

### ①まとまりのある文章を書く力を育成するための学習過程

1学期は「話したことに基づいて書く」言語活動を中心に単元づくりを行った。

1	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握し、学習の見通しを持つ。
2	・やり取り(教師と生徒間/生徒同士間/教師自作教材や教科書の会話文など)を通して、情報を収集し、自分の意見や考えを整理する。
3	・自己評価表を活用して、内容と構成の検討を行い、表現する。 ・相互評価や中間指導を通して、内容と構成を再構築し、表現を改善する。
4	・学んだことを言語活動で再び活用し、単元学習を振り返る

### ②言語活動の工夫

- ・帯活動において質問文のインプット活動
- ・生徒の生活や経験に近い状況や場面の設定
- ・課題について生徒同士の相互評価
- ・自己評価表の工夫
- ・ICT活用
- ・パフォーマンステストに向けた単元学習を振り返る時間の設定

## 5 研究の成果と考察

- 学習過程2の設定から、「話したことに基づいて書く」ことが英語が得意な生徒に定着してきており、主語+述語、理由を含む30語以上の英作文をスムーズに話したり、書いたりすることができるようになってきている。特に「夏休みの予定について話そう/書こう」において成果が見て取れた。
- 学習過程3の設定から、生徒同士の相互評価や英作文を全体共有できるICTを活用したことで、英語が苦手な生徒が得意な生徒の文章を英借しながら表現できるようになってきている。徐々にではあるが動詞を意識するようになり、基礎的な構成として「自分がやったこと+感想」を3文以上の構成で話したり、書いたりすることができつつある。
- アンケート結果より、質問したり答えたりしながら伝え合う力がついた、やり取りが楽しいと答えた生徒が多い。

## 6 今後の課題

「話したことに基づいて書く」という自分発信での基礎的な書くことの活動から

- 視野を広げ、社会的な話題について自分の考えや意見を整理し「まとまりのある文章」を書く活動へとステップアップさせるための学習過程の設定について。
- 意識を相手に向け、相手の発信に耳を傾け、それらを自分の意見や考えと合わせ整理し、伝え合ったり、表現したりすることのできる言語活動の工夫について。
- アウトプット活動につながる効果的なインプット活動の工夫について。

令和6年度事業計画

月	日	曜	事業	備考
5	10	金	九英連鹿児島大会 第1回理事会(オンライン)	沖中英研会長・事務局
5	13	月	第1回沖中英研役員会(新役員体制/令和6年度事業計画/地区役員連絡会/交流)	沖中英研役員
5	17	金	沖中英研役員および地区役員連絡会 (新役員体制/令和6年度事業計画/他)	沖中英研役員 各地区役員
6	7	金	第2回沖中英研役員会(スキットコンテスト)	沖中英研役員
6	28	金	英語スキットコンテスト県大会申し込み締め切り	弁論部宛( )
7	13	土	第4回英語スキットコンテスト沖縄県大会 場所:沖縄県男女共同参画センター「ていりる」 ※各地区より代表2校出場	運営:沖中英研役員
9	6	金	第3回沖中英研役員会(英語弁論大会/英語研究大会/「交流」/他)	沖中英研役員
9	20	金	高円宮杯第76回全日本中学校英語弁論大会沖縄県大会 申し込み締め切り	弁論部宛( )
10	5	土	高円宮杯第76回全日本中学校英語弁論大会 県予選大会 場所:沖縄県男女共同参画センター「ていりる」 ※各地区より代表2名出場	運営:沖中英研役員
10	11	金	弁論大会全国大会への県代表申し込みの発送 (※代表校各自にて)必着	読売新聞社へ
10	11	金	第4回沖中英研役員会(英語研究大会)	沖中英研役員
10	18 19	金 土	九英連鹿児島大会分科会 発表:前田 安子 教諭 (国頭地区) 司会:城間 元喜 教諭 (国頭地区)	沖中英研役員 沖中英研会員
11	15 16	金 土	第74回全国英語教育研究大会(全英連埼玉大会)	沖中英研役員
11	27 28 29	水 木 金	高円宮杯第76回全日本中学校英語弁論大会 決勝大会(有楽町よみうりホール)	読売新聞東京本社
11	29	金	令和6年度 第5回沖縄県中学校英語教育研究大会 公開授業者: 川田 奈々 教諭(中頭地区) 実践発表者: 前田 安子 教諭(国頭地区)	沖中英研役員 沖縄県英語教諭
12	7 8	土 日	第29回沖縄県中学校総合文化祭(係分担あり) (スキット及びスピーチ弁論大会最優秀受賞者出場予定)	沖中英研役員
1	10	金	第5回沖中英研役員会(「交流39号」進捗状況・次年度計画)	沖中英研役員
2	21	金	沖中英研機関紙『交流』39号原稿提出締め切り完成→HPに掲載	広報部( )
3	14	金	第6回沖中英研役員会(次年度計画の提案)	沖中英研役員

# 沖縄県中学校英語教育研究大会 開催地区等ローテーション

	年度	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)
1	開催時期	第1回 11月 (オンデマンド)	第2回 11月26日 (オンデマンド)	第3回 11月25日	第4回 12月1日	第5回 11月29日	第6回	第7回 九英連大会と兼ねる
2	開催地区	中頭地区	島尻地区	国頭地区	那覇地区	中頭地区	島尻地区	九州地区英語 教育研究大会 【沖縄大会】
3	授業者	うんな中学校 高安直樹	糸満中学校 久山智恵子	屋我地ひるぎ学園 渡具知 武巨	寄宮中学校 兼島こずえ	北中城中学校 川田奈々	島尻地区	那覇地区
4	分科会 (当該年度の九英 連発表者)		高江洲中学校 伊波木綿子	石田中学校 赤嶺太介	伊良波中学校 前大えり	屋部中学校 前田安子	那覇地区	島尻地区
5	実践発表						宮古、八重山地区や小学校英語の 実践発表を紙面発表	
6	九英連大会開催県		熊本県	佐賀県(全英連)	大分県	鹿児島	長崎県	沖縄県
7	※九英連分科会 発表地区		中頭地区	島尻地区 那覇地区	国頭地区 島尻地区	国頭地区	那覇地区	島尻地区

※R2年度の九英連中止に伴いローテーションを変更

## 開催のねらい

- 1 本県英語教育の発展を目指した情報交換の場とする。
- 2 英語教員の資質向上に資する研修の場とする。

## 各項目についての説明

- 1 開催時期については、基本的に九英連大会の週を外し、同時期に実施する。＜参考＞県スキットコンテスト(7月)、県スピーチコンテスト(10月)
- 2 開催地区については、本島内の4地区でローテーションする。
- 3 授業者は開催地区から選出する。授業者の学校が開催会場となる。
- 4 分科会発表は、当該年度に九英連大会で発表予定者が行う。分科会発表内容を県内でも発表して実践を共有する。
- 5 実践発表については、本島内4地区以外の宮古、八重山地区や小学校英語の実践発表を紙面発表(映像発表も可)し、小学校英語も含め広く実践を共有する。



沖縄県中学校英語教育研究会